

ICT超高齢社会構想会議 報告書(概要)

平成25年5月

「スマートプラチナ社会」の実現

- ICTで創る安心・元気なくらし-

Mission - ミッション

● 「スマートプラチナ社会※」の実現！
- ICTで創る安心・元気なくらし-

※「シルバー」を越えて、全ての世代がイノベーションの恩恵を受け、いきいきと活動できる超高齢社会

Vision - ビジョン

- I. 健康を長く維持して自立的に暮らす
- II. 生きがいをもって働き、社会参加する
- III. 新産業創出とグローバル展開

課題

- ◆労働人口の減少
- ◆医療費の増大
- ◆コミュニティ意識の希薄化

取組の方向性

- ◆「予防」による健康寿命の延伸
- ◆高齢者の知恵や経験を活用
- ◆「スマートプラチナ産業」の創出

課題

- ・労働人口減少、医療費増大
- ・コミュニティ意識の希薄化

ICT
による
貢献

Mission—使命

スマートプラチナ社会！
ICTで創る
安心・元氣な暮らし

Vision—目標

- I. 健康を長く維持して自立的に暮らす
- II. 生きがいをもって働き、社会参加する
- III. 新産業創出とグローバル展開

取組の
方向性

- ◇ 「予防」による健康寿命の延伸
- ◇ 高齢者の知恵や経験を活用
- ◇ 「スマートプラチナ産業」の創出

「スマートプラチナ社会」の実現

ビジョンⅠ

健康を長く維持して自立的に暮らす

プロジェクト① ICT健康モデル（予防）の確立

- 健康寿命の延伸を実現する予防モデル確立のための大規模社会実証

プロジェクト② 医療情報連携基盤の全国展開

- 医療・介護・健康分野のデータを共有・活用するための基礎的インフラの整備・普及

プロジェクト③ 「ライフサポートビジネス」の創出

- 買物、配食、見守りなどの生活支援サービスを ICTで切れ目なく提供するモデルの構築

ビジョンⅡ

生きがいをもって働き、社会参加する

プロジェクト④ ICTリテラシーの向上

- ICTの「学びの場」創設
- 「情報取得」から「情報発信・交流」へ

プロジェクト⑤ 新たなワークスタイルの実現

- テレワークなどを活用した現役世代とのベストミックス就労モデルの実証

プロジェクト⑥ ロボット×ICTの開発・実用化

- 身体的機能を補完する介護ロボット、コミュニケーションロボットなどの社会実証・ガイドライン策定

ビジョンⅢ

超高齢社会に対応した新産業創出とグローバル展開

プロジェクト⑦ 「スマートプラチナ産業」の創出

- オープンイノベーションによる「シルバー」を越える新たな産業群の創出

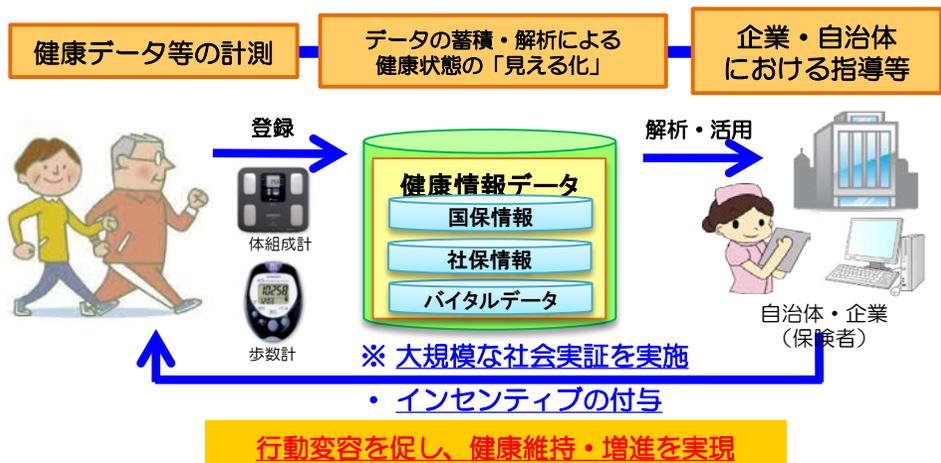
プロジェクト⑧ グローバル展開と国際連携

- フロントランナーとして世界に貢献するためのICTシステムの標準化、各国との共同実証・連携

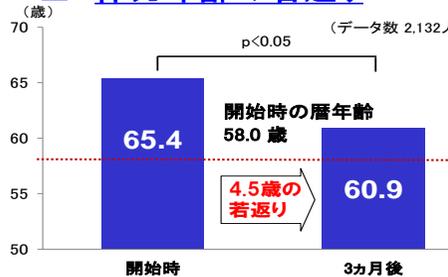
2020年に23兆円規模の新産業創出

ICTシステムや健診データ等を活用した健康モデル(予防)の確立・普及に向け、地方自治体や企業が主体となった大規模な社会実証を実施するとともに、健康ポイント等のインセンティブ措置の在り方についても検討し、それらの成果を踏まえた普及を促進

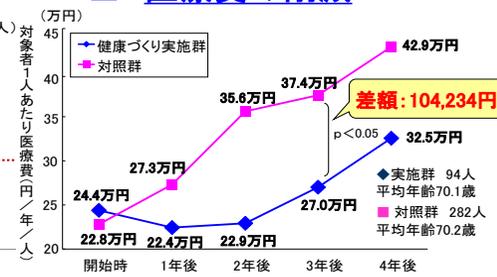
例① 健診データ、レセプトデータ等に基づく健康づくりの推進



■ 体力年齢の若返り



■ 医療費の削減

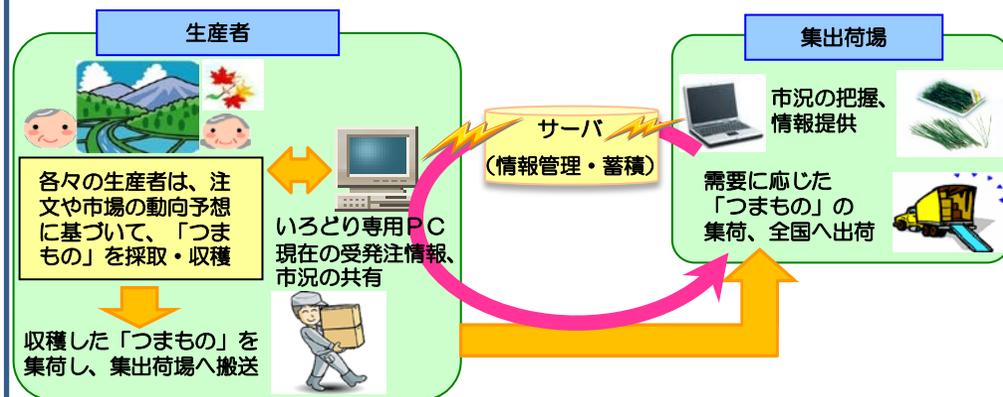


新潟県見附市の事例

具体的な施策内容

- ICTを活用した健康モデルの確立・普及
- 「予防」に対する国民全体の意識・行動変容を促すための施策の推進

例② 高齢者の就農による健康づくりの推進



地場産品ビジネスへの従事が高齢者の生きがいにつながり、高齢者医療費の削減や、健康状態の改善(寝たきり解消)を実現

■ 健康増進

- ◆ 高齢者一人当たりの医療費は年間60万円強にまで減少(他市町村では100万円近くかかっているところも)
- ◆ 高齢化率52.4%(2010年10月国勢調査)と高率ながら寝たきり高齢者はゼロ(2010年4月時点)

■ 経済性の確立

- ◆ 売上高が事業実施後、約1.5倍に
- 売上高 149百万円(H10) → 270百万円(H18)

徳島県上勝町の事例

具体的な施策内容

- 高齢者の就農など、地域における多様な働き方と健康増進等、経済性を兼ね備えた健康モデルの確立と普及促進に向けた実証等

- 医療・介護・健康分野のデータを、本人や医療従事者等の関係者間で共有・活用するための基礎的インフラとなる医療情報連携基盤の整備の推進
- 在宅医療・介護のチーム連携を支えるICTシステムの確立に向けた実証と実用化を踏まえた全国展開

医療情報連携基盤の全国展開

医療・介護・健康分野のデータを共有・活用するための基礎的インフラである医療情報連携基盤の全国展開

【期待される主な効果】

- 情報共有による継続的な医療サービスの提供
- 疾病管理を通じた重度化の防止、予防の推進
- 重複検査の回避等による業務負担の軽減、効率化
- 在宅医療・介護連携の推進
- 災害時のバックアップ



具体的な施策内容

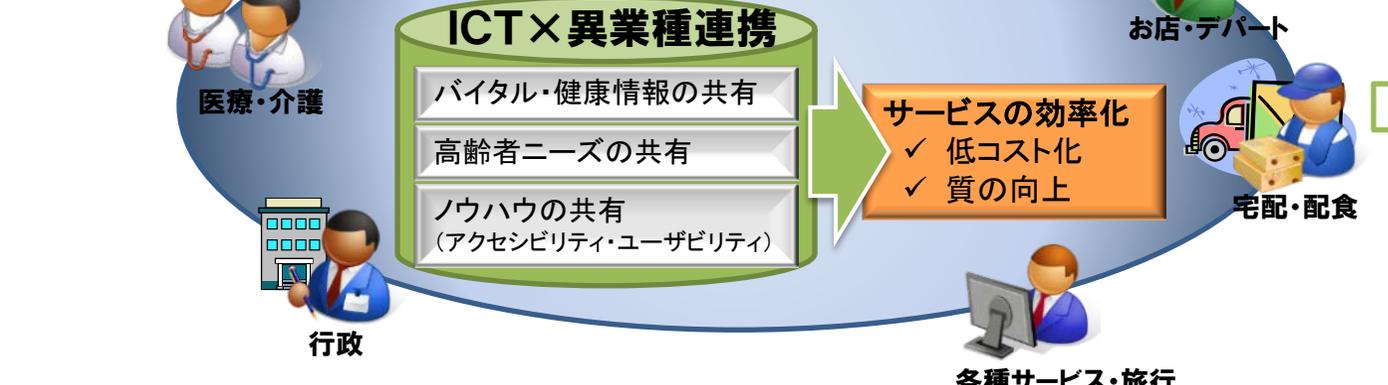
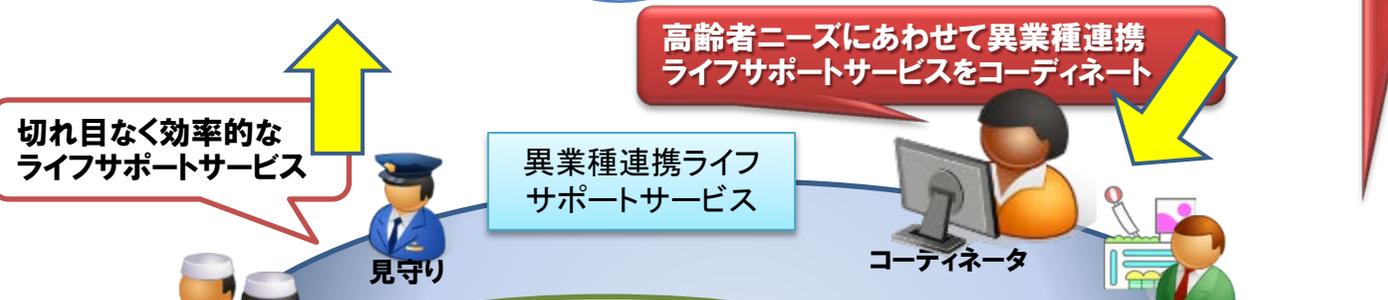
- 全国展開に向けて必要となる技術検証や運用ルール確立等に関する実証
- 低廉なシステムの在り方に関する検証
- 医療・介護間で共有すべき情報の特定
- 介護分野におけるデータやシステムの標準化
- 在宅におけるモバイル端末やセンサー技術等の活用方策の明確化
- 持続的な運用を担保する仕組みの検討

■ 各地域の超高齢社会が抱える課題解決のため、高齢者等利用者のニーズや実証の成果を踏まえ、行政・企業・地域住民等が有機的に連携した「ライフサポートビジネス」(買物、配食、見守りやオンデマンド交通等)やコミュニティビジネス等、地域経済が循環し、持続可能なモデルの構築

高齢者の日常生活を支える「ライフサポートビジネス」



高齢者の日常生活を支える
「ライフサポートビジネス」の創出
2020年に13兆円規模の経済効果



具体的な施策内容

- 民間事業者や自治体の各種サービスがICTで連携し、切れ目なく効率的に高齢者の自立生活を支援できる「ライフサポートビジネス」のモデル構築に向けた実証等

プロジェクト④ ICTリテラシーの向上

プロジェクト⑤ 新たなワークスタイルの実現

- 高齢者がICTを使ってコミュニティで活動できる社会環境を構築するため、地方自治体とも連携しつつ、地域でICTの使い方をともに学び、教え合うことができる場の確保やサポーターの配置、カリキュラムの整備等の支援
- テレワーク等ICTの活用により意欲ある高齢者の就労が容易となる新たな就労モデルの実証とその成果を踏まえた普及

仲間づくり



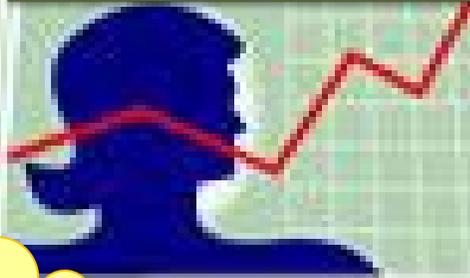
SNSでの交流



ボランティア活動

地域活動への参加

ICTリテラシーの向上



テキストの活用



新たなワークスタイルの実現



自立

- ・ ICT活用により、意欲ある高齢者が就労参加
- ・ 介護離職者がテレワークで就労機会を確保

具体的な施策内容

- テレワーク、クラウドソーシング等の推進
- ICTを活用した高齢者と現役世代のベストミックスモデルの実現

シニアボランティア

生涯学習センター



サポーター

小中高等学校



学びの場

大学

学び直し、交流
⇒ より高い自己啓発

具体的な施策内容

- コミュニケーション活性化につながるICTリテラシー向上施策の一体的推進
- ・ 教え合う場の確保(公民館、学校、空き施設等)とユーザーニーズを吸い上げる仕組みの構築
- ・ 活動を支援するサポーターの配置、シニアボランティアによる協力
- ・ カリキュラムやテキストの整備、ICT習熟度に係る評価指標の策定等

■ 高齢者の身体機能や認知機能を「補い」、高齢者の経験や知識を「活かし」、また介護現場等の労働力不足を「支える」ことが可能なコミュニケーションロボット等のICTシステム・サービスの実証やガイドラインの策定等

例① コミュニケーションロボット

買い物支援ロボット

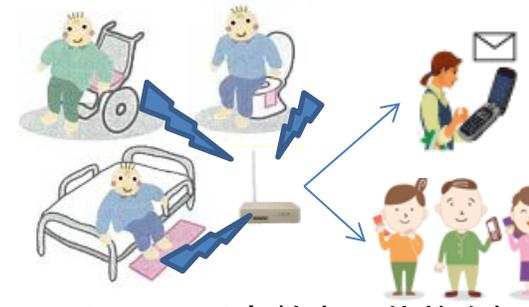


人の言動に反応して感情表現をするロボット



- センサーで感知した人の言動に応じて、感情表現や人のような動作を行う
- 認知症高齢者とのふれあい等に活用

例② センサー技術を利用した見守りサービス



- センサーにより高齢者の状態を把握し、遠くの家族等に知らせたり、緊急通報を行う

例③ 自立・生活支援システム



ウェアラブル
(装着可能)
カメラ・マイク

イヤフォン

- デバイス、クラウド技術、ネットワークが連携し、認知・行動能力を補完
- 安全な歩行経路の選択、音声や顔の認識、コミュニケーションを支援

例④ アクセシビリティ等に配慮したICTシステムの開発・提供

手書き文字認識



操作の簡単なスマートフォン



具体的な施策内容

- ICTシステムの社会実装に向けた技術検証、制度的課題のための実証事業等
- 高齢者が安心して利用できるシステムの開発・提供するためのガイドラインの策定等の検討

プロジェクト⑦ 「スマートプラチナ産業」の創出

プロジェクト⑧ グローバル展開と国際連携

- 超高齢社会の課題解決先進国として、日本モデルの構築・グローバル展開に向けた、ICTシステムの国際標準化、アジア諸国等との共同実証、サービス展開先の事前調査の支援
- ITUや二国間協議等を通じた積極的な国際機関や諸外国との連携

日本モデルの構築・グローバル展開



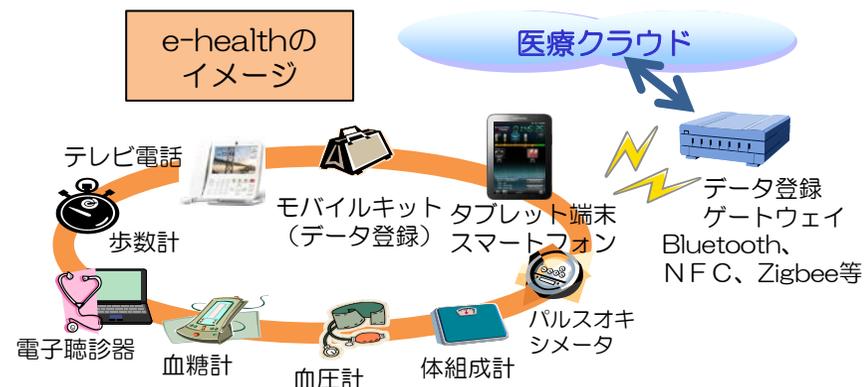
具体的な施策内容

- 日本モデルの構築
- 各国のニーズ・制度等の調査
- 現地向け運用要件の策定
- アジア諸国との共同実証

国際機関や諸外国との連携

例 ITU-Tにおける取組

- ITU-T(電気通信標準化部門)において、医療ICT(e-health)の分野を対象に国際標準化が進展。



- 昨年10月、ドバイでのイベントで、我が国企業がモバイルヘルスシステムを出展。途上国を中心に各国が期待。



具体的な施策内容

- ICTシステムの国際標準化
- 国際機関や諸外国との連携

プロジェクトの推進ロードマップ①

2014年頃

2017年頃

2020年頃

健康寿命の延伸

質の高い医療・介護サービス実現

豊かな生活の実現
安心・安全で

ICT健康モデル
(予防)の確立

医療情報連携基盤
の全国展開

「ライフサポート
ビジネス」の創出

地方自治体や企業を主体とする大規模社会実証の実施

- ・モバイル端末やセンサー技術等を組み合わせた、「予防」を促す有効なアプリケーションの開発
- ・健診データやバイタルデータ等の蓄積・解析のシステム構築
- ・モデルの有効性を示すエビデンス取得、インセンティブ措置の検討

モデルの確立普及

- ・経済性を兼ね備えたモデルの普及推進

医療情報連携基盤の技術検証・運用ルール確立

- ・低廉かつ安全なシステムの確立に向けた技術検証(クラウド活用、ID連携、データ標準化、セキュリティ)
- ・本人同意の在り方等、個人情報の取扱いを含めた運用ルールの策定
- ・災害時のバックアップ機能検証

全国展開の推進

- ・医療分野等のデータ共有・活用の基礎的インフラの整備推進
- ・ビッグデータ解析による疫学的検証の推進等

在宅医療・介護のシステム確立

- ・医療・介護間で共有すべき情報の特定、介護分野のデータ・システムの標準化
- ・モバイル端末・センサー等の活用方策の実証

コーディネーター機能の実現

- ・コーディネーターの役割の明確化、社会的認知を高める取組、行政・企業・住民等との連携

試行的なサービス創出

- ・個々のサービスの成熟化とパッケージ化

経済循環性を持って拡大

- ・サービスの普及、洗練、低廉化

相互連携

相互連携

相互連携

成果反映

プロジェクトの推進ロードマップ②

2014年頃

2017年頃

2020年頃

ICTリテラシーの向上

リテラシー向上の環境整備

- ICT「学びの場」設置、サポーター・ボランティア育成検討
- カリキュラム・テキスト整備、ICT習熟度評価指標の策定
- ソーシャルネットワークの活用によるコミュニケーションの活性化推進

リテラシー向上の取組推進

- ICT「学びの場」の拡大
- リテラシー向上効果の検証・改善
- 学びと教への有機的一体化

コミュニケーション活性化

新たなワークスタイルの実現

高齢者と現役世代の「ベストミックスモデル」試行

- ICTシステムモデルの確立、実証実施

相互連携

テレワークの推進

- テレワーク導入に向けた企業経営者等への働きかけ・支援、普及活動
- クラウドソーシング等、ICTを活用した新たな就労形態の推進

相互連携

新たなワークスタイル普及

現役世代と共生し、生きがいをもって働く

ロボット×ICTの開発・実用化

開発・実用化の促進

- ユーザーニーズの反映、制度的課題の洗い出し等を行うための社会実証
- 高齢者が安心して利用できるシステムの開発・提供に係るガイドライン策定

社会実装の進展

- 市場化の促進
- ICTシステムの標準化

社会参加促進、市場創出

「スマートプラチナ産業」創出、国際連携

国内外のビジネスモデルの構築・国際連携の推進

- 国内外の展開先の状況を踏まえたビジネスモデルの構築
- 国際展開案件組成に向けた情報収集・提供
- OECD・APEC等の国際機関との連携強化
- 国際標準化の推進

産業創出・国際共同実証

- オープンイノベーションによる新たな産業群の創出
- 各国との共同実証の実施
- OECD・APEC等の国際機関との連携強化

新産業創出、グローバル展開